

當時の會計狀態ヲ究窮スルニハシ

一、大正十年ニハルヤ三月大電労働爭議發生未曾有  
ノ紛擾ヲ極メ各地ヨリ金品等贈相更ニ大電  
爭議終了後尚過剩金一千百餘円アリシカ藤永田  
造船所及住友製鋼所及電線工場等相重テ勸  
發シ全シタ金品ノ寄贈アリテ結局大正十年九月  
末ニ於テ一千四百拾三円七十錢ノ剩余金ヲ存シ  
爭議其他ニ備ハツテアリテ稍經濟上ノ余裕ニ生  
スルニ至レリ

法人協調會

第 二 號

財團法人協調會大阪支所

大正十二年一月八日

協調會大阪支所長 藤澤 穆

常務理事 添出 敬 一 郎 殿

産兒制限研究會ノ件

貧乏人の子澤山は罪惡や悲惨事の甚だといふので舊臘労働總同盟大  
阪の聯合會の有志(主として野田大矢等の野武士組)は産兒制限會  
を設け大いに産兒制限に關する問題を研究する様になつた。

産兒制限研究會は一月四日次の様な宣傳ビラ五萬枚を市内に撒いた  
未來の父母來れ。兒を持つ親よ來れ、

「日本の人口は今四十三秒に一人、一日に二千人、一年七十三萬人  
宛殖える。此著しい人口増加は言ふ迄もなく全人類の生存恐怖であ

14  
号

12.1.10  
257

12.1.10  
257